「暴力の神話」授業ノート

①人間に独特な特徴を進化させた原動力は狩猟という生活様式だ。 2

⑦七百万年前に人類の祖先が二足で立ち上がってから、四百五十万年間も石器を持たずに暮らしていた　4

⑧人類が初めて使い始めた石器も武器にはほど遠い。殺傷力は弱い。　4

⑨自由になった手でいち早く武器を作っていない。武器で戦い合うようになっていない。4

⑩狩猟が人間の攻撃性を高めていない

武器を作る必要がない＝攻撃性が薄い

⑪集団間に起こる暴力的な争いの頻度は、農耕社会のほうが高い。５

狩猟採集民は争わない

⑬狩猟採集民の平等社会は、ともに生きることへ向かう実践を徹底させて維持されている。５

⑩狩猟が人間の攻撃性を高め、人間どうしの戦いを助長するものではない。５

②全体の否定

② 狩猟によって発達した攻撃性を仲間へ向けた。2

そうすること

不戦・平等という規範で生活する

⑫狩猟採集社会では、争いが起きないような規範が生活の隅々に行き渡っている。５

⑭狩猟は人間どうしの戦いとは性質が違う。6

⑮仲間との戦いは相手に自分を理解させ、平和を作り出す目的で行使される。６

⑯相手の了解が得られれば、戦いを続ける必要も、相手を殺す必要もない。６

⑱ヒヒやチンパンジーは狩猟の方法を用いて仲間を襲うことはない。６

③ 倫理や規範に基づく大きな社会を編成できるようになった。2

狩猟によるものではなく、農耕によって集団のために戦うという意識を作った

⑰ゴリラの雄は暴力をめったに仲間へ向けることはない。６

⑲農耕の出現によって集団に帰属し、集団のために戦うという意識が生まれた。7

⑳人間は家族を超えてさらに大きな集団に身を捧げて戦うという精神構造を発達させた。　7